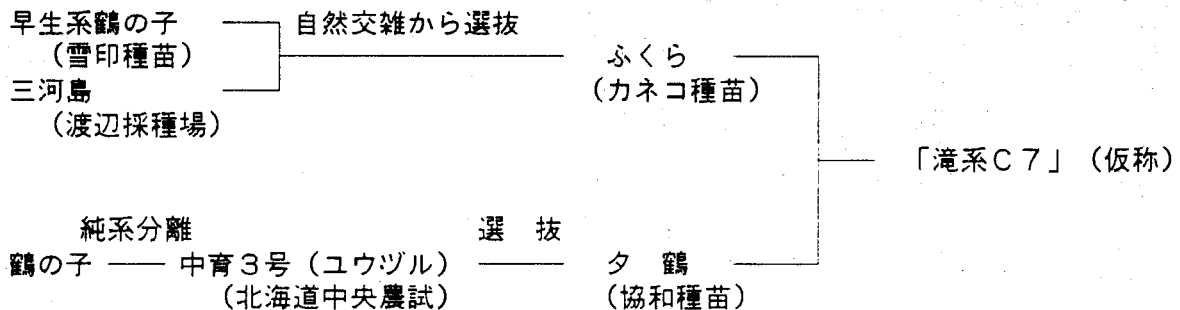


奨 励 品 種  
えだまめ 「滝系C7」 (仮称)

(農試技術部、県北分場、県南分場、園試野菜花き部)

1 来歴

岩手県立農業試験場において、中生で多収の「ふくら」を母親、晩生で大莢の「夕鶴」を父親として昭和60年に交配し、中生熟期、大莢、多粒莢率が高く良食味の系統を選抜し、平成7年に育成を完了した品種である。(品種登録出願中)



2 特性の概要

(1) 形態的特性

- ア 胚軸色は緑、花色は白、葉の形は中間葉、毛茸色は白。成熟した子実の種皮色は緑～黄緑色、臍色は緑、子葉色は黄である。
- イ 草丈および主莖長は「ふくら」より長く、最下着莢節の高さはやや高い。着莢密度は中で「ふくら」より小さく、最大繁茂期のLA1は「ふくら」より小さい。
- ウ 莢の長さ及び幅は、「ふくら」、「美園グリーン」より大きい。若莢の色は「ふくら」並である。

(2) 生態的特性

- ア 開花期は「ふくら」より2程度遅く、収穫適期は「ふくら」並の中生品種である。開花期から収穫適期までは30～40日間であり、収穫適期は8月上中旬である。
- イ 収量は「ふくら」並である。
- ウ 上莢、完全莢及び多粒莢の割合が「ふくら」よりも高い。また、割れ莢の発生は「ふくら」よりもごく少ない。これらのことから、選別作業が容易である。
- エ 甘さ、香りとも「ふくら」より優れ、食味が優る。
- オ ダイズ黒根腐病に弱である。また、ダイズモザイク病に抵抗性を有しない。

### 3 奨励品種に採用する理由

えだまめは本県の野菜重点品目のひとつとして振興がはかられており、市場評価の向上が求められている。このことから、大莢、良食味、中生の「滝系C7」（仮称）の編入によって、夏季出荷にあたる中生品種の「ふくら」「美園グリーン」に替わって、大莢生産による品質向上がはかられ、産地の評価向上につながることを期待できる。また、良莢の割合が高いこと、及び1莢重量が重いことから、選別労力の軽減にもつながるものと期待できる。

### 4 適応地帯

- (1) 地帯：高標高地、高冷地を除く県下全域
- (2) 普及見込み面積： 60ha（平成10年度）

### 5. 栽培上の留意点

- (1) 作型は「ふくら」と同じ。栽植密度は「ふくら」並とし、マルチ栽培をおこなう。
- (2) 連作を避けるとともに、わい化病等による減収を防ぐためアブラムシ防除を行う。
- (3) 収穫適期の目安は、大部分（約7割）の3粒莢の厚さが8～9.5mmの範囲に入った時期（平均8.5～9mm）とする。また、開花期から収穫適期までの日数は平均36日間である。

### 6. 試験成績の概要

試験場所	岩手農試（育成地、平5～7年）				岩手県北分場（平6～7年）	
	滝系 C7	ふくら (対照)	美園グ リン	ヤマ メ	滝系 C7	ふくら (対照)
系統・品種						
項目						
開花期（月・日）	7・10	7・10	7・9	7・8	7・16	7・14
収穫適期(月・日)	8・15	8・16	8・13	8・15	8・13	8・13
主莖長（cm）	44.2	35.3	35.8	32.0	56.1	49.6
着莢密度(莢/cm)	1.00	1.78	1.19	1.53	—	—
最下着莢節高(cm)	9.6	7.6	8.4	7.1	—	—
上莢収量(kg/10a)	639	561	631	532	709	768
上莢率（%）	81.0	65.0	74.0	73.0	—	—
上莢中完全莢率(%)	88.0	76.0	75.0	79.0	84.6	80.4
多粒莢率（%）	32.7	18.0	22.3	24.3	—	—
割れ莢割合(%)	0.07	1.8	0.07	0.08	—	—
若莢の長さ（mm）	63.7	58.5	55.6	65.1	64.0	57.5
幅（mm）	12.7	11.5	11.2	12.1	13.1	12.0
厚さ（mm）	8.7	8.6	8.0	8.6	—	—